



## 国立公園における自然再生の 取組

---



## 国立公園における今までの取組

---

< 過剰利用により劣化した植生の復元 >

・山岳地の登山道脇で裸地化した植生の復元

< 公園の代表的な自然景観の変化への対応 >

・複合的な要因による生態系の劣化への対応

・人手による管理が行われなくなり、変化の進む二次的な自然環境の維持管理

## 日光国立公園

### 尾瀬(アヤマ平)における植生復元の取り組み

昭和30年代 尾瀬ブーム  
登山者の踏みつけによる湿原植生の破壊



昭和41年～  
群馬県 植生復元事業に着手(国の補助)

昭和44年～  
地権者(尾瀬林業) 植生復元事業に着手

～現在  
尾瀬保護財団がモニタリング

## 日光国立公園

### 尾瀬(アヤマ平)における植生復元の取り組み

～アヤマ平の昔と今～

著作権により非公表

植生復元中のアヤマ平  
出典:永遠の尾瀬(上毛新聞社)



著作権により  
非公表

近年のアヤマ平(平成13年)  
写真提供/(財)尾瀬保護財団

## 大山隠岐国立公園

### 大山頂上における植生復元の取組

昭和40～50年代

登山者の踏みつけによる山頂の植生の破壊・裸地化の進行

昭和60年

官民32団体による「大山の頂上を保護する会」設立

「一木一石運動」の開始(一般登山者への呼びかけ)

昭和61年 環境庁「大山頂上保全計画」策定

昭和62年～平成9年

鳥取県、保護する会が大山頂上植生復元事業を開始(国の補助)  
実施方法は「大山頂上保全研究会」の提案に基づく。

～現在

大山の頂上を保護する会が、事業を継続。

出典:大山の頂上保護活動10年のあゆみ(1996)

## 大山隠岐国立公園

### 大山頂上における植生復元の取組

裸地化した大山頂上  
(昭和50年代後半)

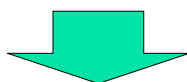
植生復元の進む頂上  
(平成7年)

著作権により非公表

著作権により非公表

## 大山隠岐国立公園 大山頂上における植生復元の取組

- 関係行政機関・団体等の広範な参画・連携
- 地域の発意による市民参加型の保護活動（一木一石運動）
- 土壌浸食・植生に関する学術調査・研究の結果を踏まえた保全対策の実施



自然再生事業の先駆的な取組み

## 従来を取組と自然再生との違い

	従来からの取組	自然再生
対象区域	損なわれたその場所だけを対象にしたスポット的対応	関連する生態系を含む広域的対応(流域単位等)
対象の自然環境	植生が主な対象であり、周辺植生と同様の緑化を行う	植生に限らず生態系全体、干潟、サンゴ礁なども対象
原因	踏み荒らしなど公園利用に起因したものが多	各種の複合的な要因による生態系の劣化への対応
専門家の関与	必要に応じて学識専門家に意見を聴く	学識専門家による科学的評価が必須
多様な主体の参画と連携	国・公共団体などの公園管理者が独自に実施	計画段階からの地域の多様な主体の参加・連携・合意形成

## 新・生物多様性国家戦略における 自然公園における自然再生事業の位置付け

第4部第1章第7節3

- 国立・国定公園を自然再生事業を優先的に実施する場所と位置付け、積極的に自然再生事業を推進。
- ただし、自然性の高い地域での事業となることから、調査設計段階から事業実施、完了後の維持管理に至るまで、地域住民やNGO等との合意形成を十分に図るとともに、事業着手後も、モニタリングと順応的管理を継続的に実施していくことが必要。

## 自然公園法施行令の改正

～ 保護施設への自然再生施設の追加～

公園事業となる施設

利用施設  
園地、宿舎、歩道など

保護施設  
植生復元施設  
動物繁殖施設  
砂防施設  
防火施設  
自然再生施設(H15.4.1追加)

## 自然再生事業関係環境省予算 ～平成15年度～

**自然再生に係る調査・計画策定** 4.9億円

自然再生基本調査 30百万円

自然再生推進計画調査 464百万円

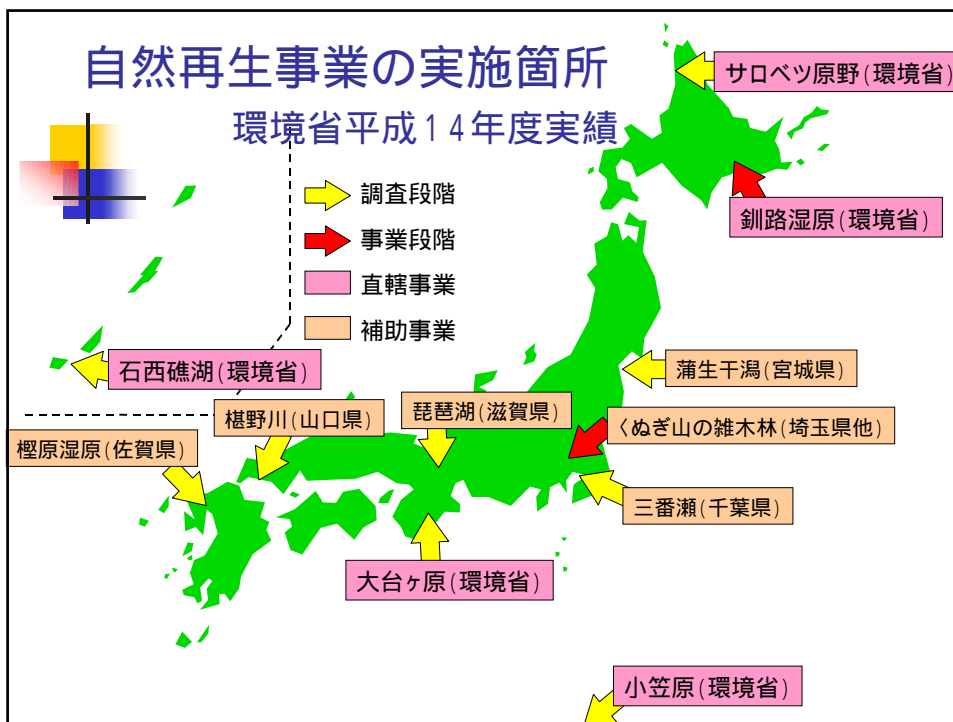
**自然再生事業の実施** 5.1億円

自然再生整備事業：釧路湿原(直轄) 5億円


ふるさと自然再生事業：埼玉県くぬぎ山周辺(補助) 8百万円


## 自然再生事業の実施箇所


環境省平成14年度実績




## サロベツ原野 (利尻礼文サロベツ国立公園)










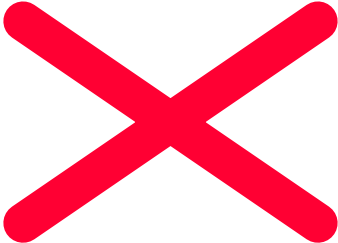
牧草地の湛水状況


湿原へのササの進入

## 大台ヶ原 (吉野熊野国立公園)




現在の正木峠付近の林況





防鹿柵とトウヒの植栽



ニホンジカによる被食

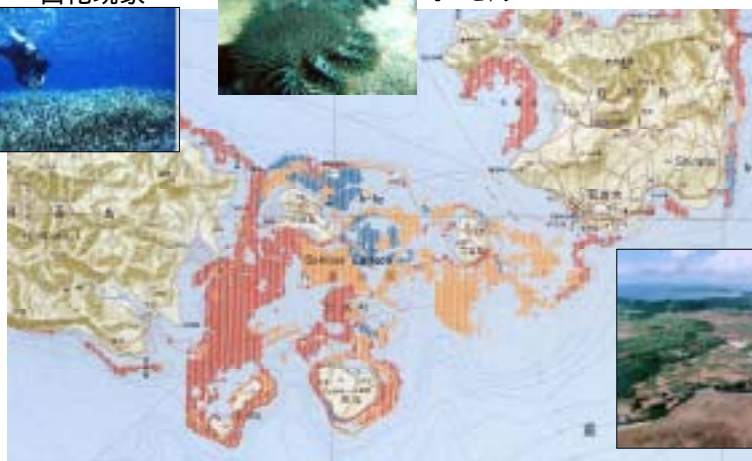
## 石西礁湖 (西表国立公園)



白化現象



オニヒトデ



赤土流出

## 国立公園において自然再生事業を実施する上での留意点

- 国立公園の自然環境を再生するためには、公園外の自然環境をも含めた広い視野が必要であること。
- 公園外での取組が必要な場合をはじめ、計画段階から数多くの主体と連携し、その協力を得ていく必要があること。
- 科学的データに基づき実施していくため、専門家の協力を得つつ、公園管理者として主体的に自然環境のモニタリングを実施していく必要があること。